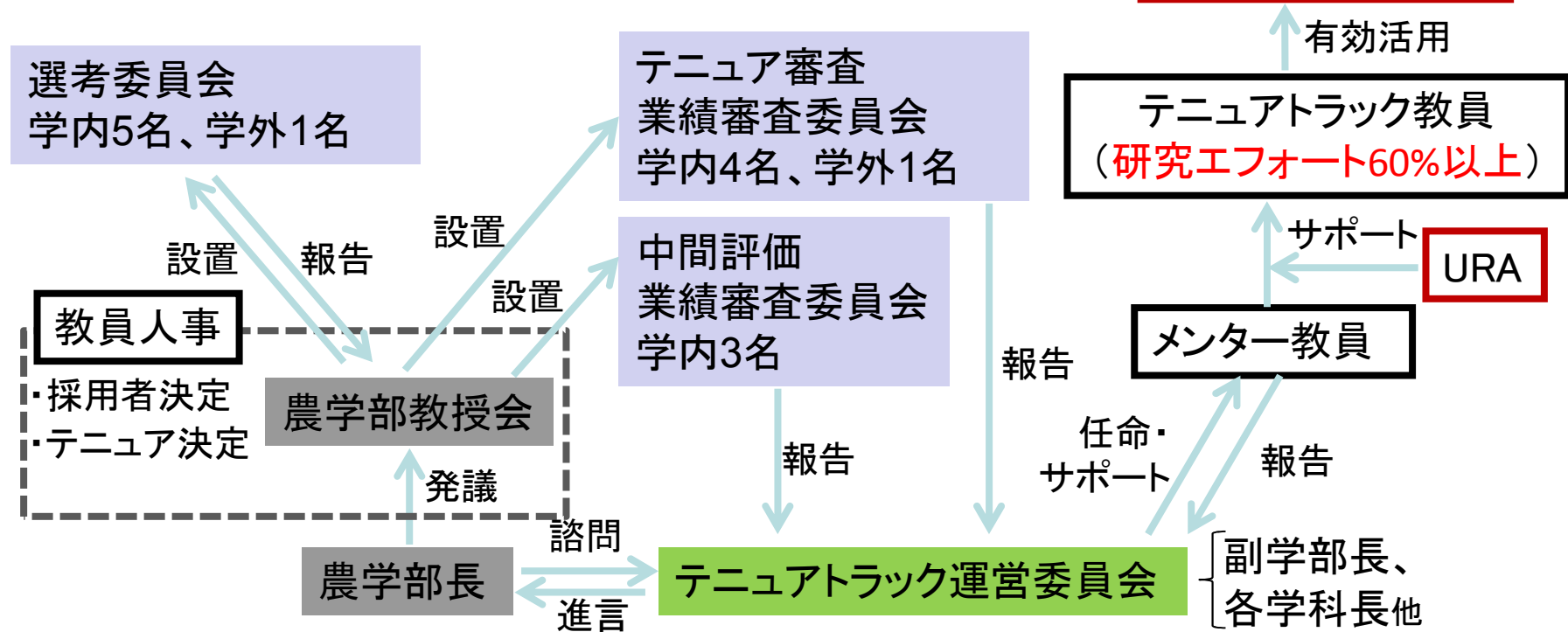


農学部の特ニユアトラック制実施体制

特ニユアトラック制の運用を円滑に行うために、
農学部長をサポートする特ニユアトラック運営委員会を設置。

地域研究機関との
連携ネットワーク



継続性について

現状 助教を任期5年(再任可)で採用し、大講座制の中で自主的かつ独立的な研究活動を保証し、研究業績等により任期のない教員(准教授等)として任用。

今後 現在の組織体制(大講座制)を基盤として、今回の特ニユアトラック制実施の経験を活かしながら、積極的に特ニユアトラック制を活用して、研究力強化を図る。

農学部におけるテニュアトラック教員の選考・採用

- ・テニュアトラック准教授・助教として採用
- ・任期5年

選考・採用

◇国際公募

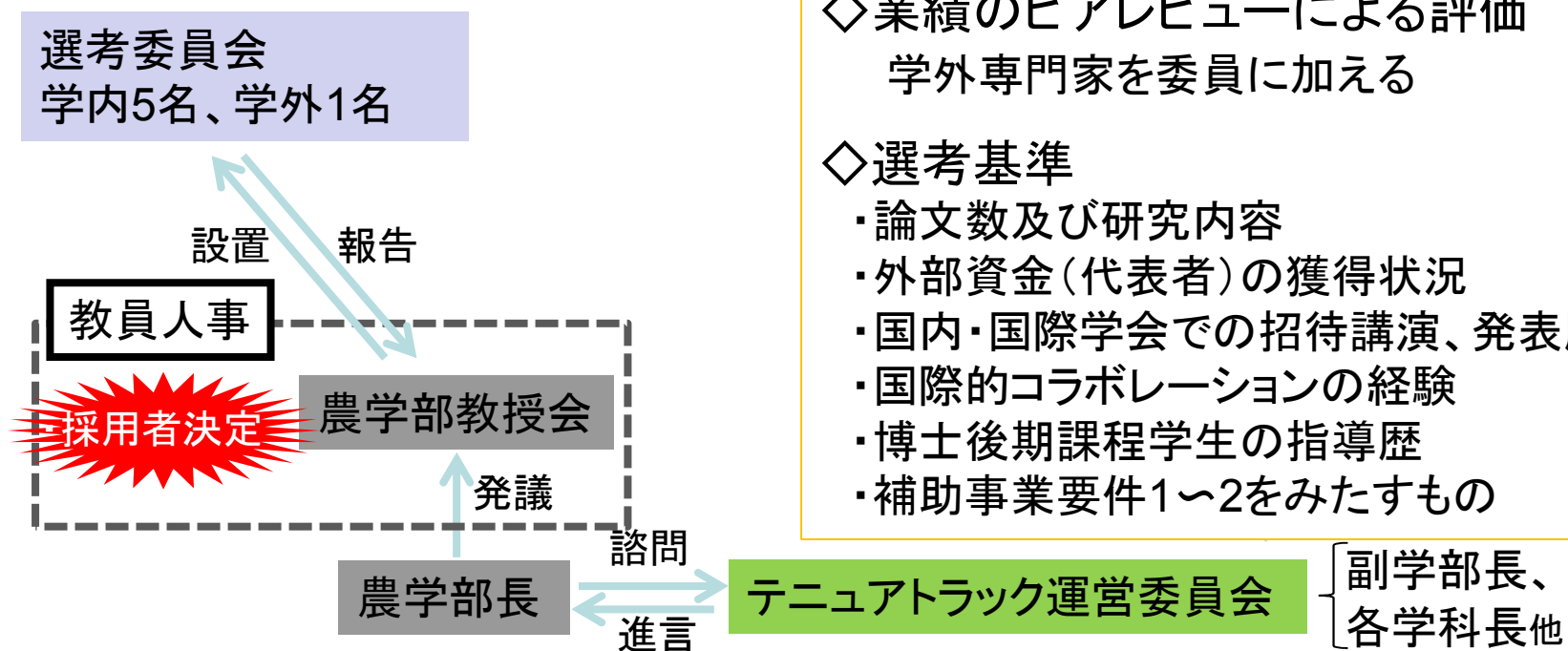
大学HPに掲載、公募情報サイトへの掲載

◇業績のピアレビューによる評価

学外専門家を委員に加える

◇選考基準

- ・論文数及び研究内容
- ・外部資金(代表者)の獲得状況
- ・国内・国際学会での招待講演、発表歴
- ・国際的コラボレーションの経験
- ・博士後期課程学生の指導歴
- ・補助事業要件1～2をみたすもの



農学部の自立的な研究環境の整備と育成方針等

・大講座制

1教員が1研究室を運営する体制の中で、テニュアトラック教員もPI (Principal Investigator)として、**自立した研究活動**の基盤を整備できる。

・教育負担

授業や実習の負担が軽減され、学部・大学院学生の卒業・修士論文の指導（准教授は主指導教員になれる）による**研究指導能力**の研鑽に専念できる。

・博士研究員の積極的雇用

研究の効率的遂行と**若手研究者の育成**を実践できる。

・研究設備

農学部及び全学共同教育研究室に設置された共同利用機器も使用できる。

・地域のニーズに即した実用的な研究の遂行

山口県農林総合技術センターとの連携推進会議など農学部が構築している地域との連携体制を活用し、**実践的研究能力**を研鑽できる。

農学部におけるテニュアトラック教員のテニュア審査

・適正かつ公正、そして育成方針に沿った審査

中間評価(着任後36ヶ月以内)

- ◇テニュアへのスムーズな移行をサポート
- ◇評価の観点
 - ・研究の進展
 - ・自立した研究体制の構築
 - ・競争的資金の獲得
 - ・学内外との共同研究
 - ・研究室の管理・運営
- ◇評価結果に基づきメンター等による助言

地域研究機関との
連携ネットワーク

↑有効活用

テニュアトラック教員
(研究エフォート60%以上)

↑サポート

URA

メンター教員

任命・
サポート

報告

中間評価
業績審査委員会
学内3名

↓報告

テニュアトラック運営委員会

{副学部長、
各学科長他

教員人事

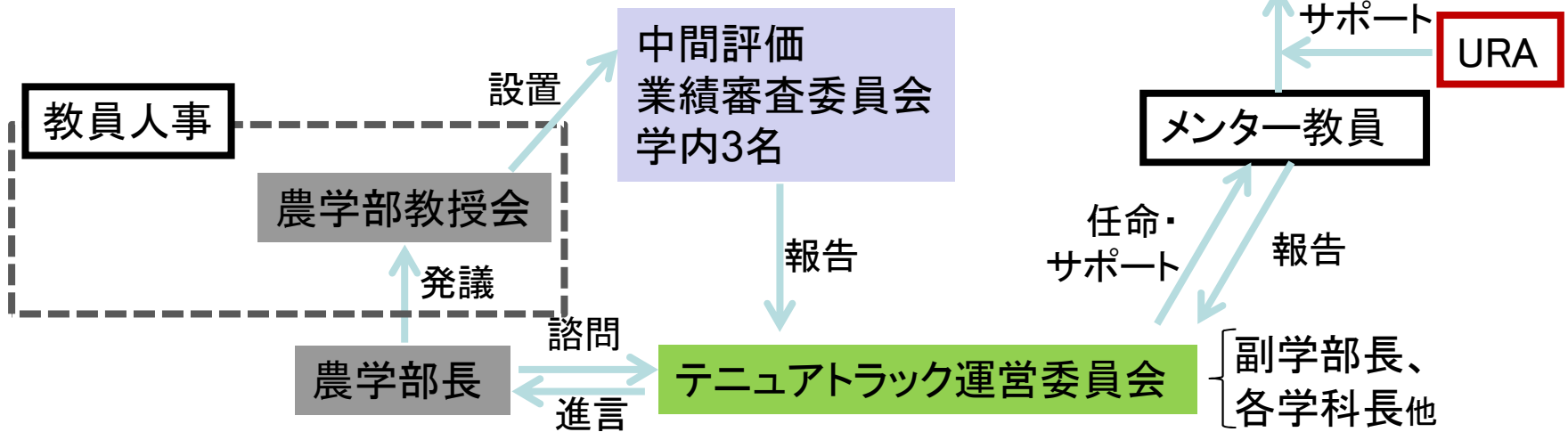
農学部教授会

農学部長

設置

↑発議

↑諮問
↓進言



農学部におけるテニュアトラック教員のテニュア審査

・適正かつ公正、そして育成方針に沿った審査

テニュア審査(着任後54ヶ月以降)

- ◇業績のピアレビューによる評価
学外専門家を委員に加える
- ◇審査基準
 - ・研究業績(論文、招待講演、学会発表等)
 - ・外部資金(代表者)の獲得状況
 - ・学会における活動及び受賞歴
 - ・国内、国際的コラボレーション状況
 - ・教育実績

